

平成26年度経営協議会における学外委員からの意見と本学の対応状況（平成27年3月18日現在）

[平成25年度第5回 平成26年3月26日][平成26年度第1回 平成26年6月18日][平成26年度第2回 平成26年10月3日]
 [平成26年度第3回 平成26年12月24日][平成26年度第4回 平成27年2月13日]

意見交換等における意見

| 議題 | 学外委員からの意見 | 本学の対応状況 |
|------------------------|---|--|
| <p>東京海洋大学の将来構想について</p> | <p>（将来構想・大学改革の推進について）</p> <ul style="list-style-type: none"> 東京海洋大学が海洋資源エネルギーの分野に力を注いでいくのにあたり、新しい教員を採用できるということであるなら、新学部を作る方向性は考えられる。 学長のリーダーシップに期待したい。 これまでの蓄積を崩すのではなく、両大学のOBや文科省も納得するような議論を尽くしてほしい。 <p>【機能強化に向けたガバナンス改革について】 （教員配置戦略会議について）</p> <ul style="list-style-type: none"> 教員配置戦略会議については、実質的に機能するよう取組を進めていく必要がある。 <p>（年俸制の拡充、外国人教員の採用等について）</p> <ul style="list-style-type: none"> 業績評価に基づく年俸制の導入に当たっては、本学では高い金額を提示して、高い能力の教員を確保していく方針なのか。 外国人教員は給与や待遇といった面で大変難しいものだとは認識しているがどのように考えていくのか。 <p>（新学部の設置について）</p> <ul style="list-style-type: none"> 新学部の設置について時間的な面での問題はないか。 | <p>（将来構想・大学改革の推進について）</p> <ul style="list-style-type: none"> 本学の将来構想・大学改革については、経営協議会における意見を踏まえ、学長のリーダーシップのもとで、将来計画委員会を中心とした検討を重ね、新学部設置とガバナンス改革を柱とした「国際競争力強化のための海洋産業人材育成組織の構築」として文部科学省へ計画を提示した。その結果、本計画は平成26年度国立大学改革強化推進補助金に採択され、現在、平成29年4月の新学部設置と学部及び大学院改組に向けた計画を着実に進めている。 <p>【機能強化に向けてガバナンス改革について】 （教員配置戦略会議について）</p> <ul style="list-style-type: none"> 教員配置戦略会議については、その機能を最大限生かせるような仕組みを大学改革準備委員会を中心に検討し、平成27年度の設置に向けて進めている。 <p>（年俸制の拡充、外国人教員の採用等について）</p> <ul style="list-style-type: none"> 年俸制の拡充については、平成27年度より本格的に取り組めるよう、規則整備等を進めている。財源の制約はあるが、高い能力の教員を確保するためには、高い金額を提示する必要があると認識し検討を進めている。 外国人教員を含めた新規分野の教員採用については、他大学の状況を調査するとともに、東京海洋大学大学改革アドバイザリーボードを設置し、外部有識者による専門的な視点からの助言等をいただき、これを踏まえて大学改革準備室を中心として、採用に向けた計画を検討し進めている。 <p>（新学部の設置について）</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成29年度の開設を着実なものとするために、大学改革準備委員会を中心に具体的計画の検討を進め、大学設置・学校法人審議会の審査準備やこのための文部科学省事前相談を進めている。 |

| | | |
|----------|---|--|
| | <p>(グローバル化について)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スーパーグローバル大学創生支援事業に採択されなかったことは、本学がグローバル化を目指す上で、どのような影響があるか。また、今後どのように考えて行くのか。 <p>(広報活動について)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大きなイベントに関連させる等の工夫をして一層の広報活動に努めるべきである。 ・例えば東京オリンピックの開催もあることから、大学の立地を活かして大学の存在感を高めるようにしてはどうか。 ・新学部を作る場合にも、就職に強い等の世間からの評価の高い本学の特徴が残るよう、世間へのアナウンスや卒業生への働きかけ等の取組についても継続していくべきである。 | <p>(グローバル化について)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在実施している「グローバル人材育成プログラム」を着実に進めるとともに、本学が「我が国で唯一の海洋系大学」を掲げる以上、世界最高水準の卓越した大学となるためにグローバル化は引き続き進めていく。 <p>(広報活動について)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成26年6月23日に、人的分野・教育的分野・研究分野の連携などの連携・協力体制を構築することを目的とし、一般財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会と、本学でも連携協定を締結した。 ・大学改革関連事業に係る広報活動については、大学改革準備室がとりまとめを行う体制をとり、大学広報及び入試関係広報等と連携をとり進める取組を行うこととしている。 |
| 意見交換について | <p>(研究における本学の位置づけについて)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東京海洋大学は、世界の大学ランキングの中でどの程度に位置付けられているのか。また研究分野別での位置付けはどうかを捉えるべきである。今後、示していただきたい。 | <p>(研究における本学の位置づけについて)</p> <p>世界の大学ランキングについては、特定分野で活躍する大学として、特別に評価対象となるための手続きを申請し、平成27年9月頃には、ランキング等が示せるよう準備を進めている。今後、世界で活躍する海洋系の大学がどの程度あり、研究分野別も含めて本学がどこに位置付けられているのか、どの位置を目指すのか等を客観的データに基づき検討できる仕組みを構築していく。</p> |